

河合塾・大竹先生による

先生方のための徹底入試対策講座

第23回 **すぐには教えない，でも詳しく教える**

数学を学ぶ上で最も大切なことの一つは、自ら考えることです。教える側から言えば、数学の内容をしっかりと理解してもらうことが大切です。

問題を解くということも深く理解するための手段の一つ

ですよ。

ときとして生徒も先生も問題を解くことが数学であるとの錯覚をおこすことがあります。さらに時間不足から、とにかく問題が解けるようにならないと、ということで、解法を示してそれを覚えさせる、という誤りに陥りかねません。（もちろん、初学者においては基本的な解法を示してその中にある数学的な考え方とともにそれを覚えさせるということも必要なときもあります。）

.....

「啓林館／河合塾」のコラボレーションで

新課程用のテキスト「システム数学」

が刊行中ですが、そのうちの「システム数学3」（数学Ⅰ・A）のテキストを見て《驚き》とともに《素敵》だなど思うところがありました。（念のため申し添えますが、私はこのテキストの作成に全く関与しておらず、先日初めて見たのです。なんら利害関係はありません。）

何に驚いたのかといえ、テキストに「例題」があるにもかかわらず答は結果しか書かれていないことです。これまでの常識？では「例題」はその後に詳しい解法・解答が書かれているものです。しかしこのテキストの「例題」の後には「考え方」はあるものの

テキストの「解」は結果のみ、例えば「解 $-3 < x < 3$ 」

という具合です。そして、「例題解答集」という別冊がついており、この

「例題解答集」には、おおむね1問につき1ページの詳しい「考え方と解答」

がついているのです。

アレっと思ったのですが、これにはきつとこのテキストを作られた先生方の実に細やかな配慮と教育理念が背景にあるのだなと感じ取ることができました。すなわち

「例題の解答はすぐには教えないからね。自分でじっくりと考えてね。

でもどうしても分からなかったら、詳しく教えてあげるからね。」

ということですね。

このテキストはこれだけでも、作られた先生方の思想性が感じ取られるというものです。

このテキストを作った先生方の思想性がそのテキストのちょっとした構成からも垣間見えてくる、これはとても素敵なことだなあと思った次第です。